松戸市戸定歴史館 TOJO MUSEUM OF HISTORY × 静岡市美術館 SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

PRESS RELEASE

松戸市制 70 周年記念事業・徳川家康公顕彰 400 年記念事業

没後100年 徳川慶喜が

第 2 回ジャポニスム学会 展覧会賞を受賞しました。

ジャポニスム学会 展覧会賞 とは？

ジャポニスムあるいは**日本と海外との文化交流を主題にした優れた展覧会**を顕彰するため 2013 年に創設され、**毎年 1 件**に授与されます。第 2 回展覧会賞は 2013 年 1 月～ 12 月までの間に行われた展覧会の中から、選考委員会による審査を経て、**松戸市戸定歴史館と静岡市美術館が共同で企画した「没後100年 徳川慶喜」展**が、「漱石の美術世界」展（東京藝術大学大学美術館、静岡県立美術館ほか）、「くらしと美術と高島屋」展（世田谷美術館）など、**6 つの候補の中から選出**されました。

「没後 100 年 徳川慶喜」展

・**松戸市戸定歴史館** 2013 年 10 月 5 日（土）－12 月 15 日（日）
主催：松戸市戸定歴史館

・**静岡市美術館** 2013 年 11 月 2 日（土）－12 月 15 日（日）
主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団
静岡朝日テレビ、日本経済新聞社

概要：江戸幕府最後の将軍、徳川慶喜の没後百年を記念して開催。**歴史と美術、双方の視点から徳川慶喜の全生涯を再考した。大政奉還（政権返上）に関わる重要な未公開資料**を展示したほか、静岡では明治維新後 30 年間過ごした静岡時代に焦点をあて、日本近代洋史、写真史における慶喜作品の**美術史的考察**をし、松戸では**公爵受爵後の知られざる慶喜の素顔が吐露された「秘密事情」**などを特別公開した。総出品点数 402 件。

シンポジウムの開催
「徳川慶喜の油彩画を読む―幕府開成所と近代洋画」
2013 年 11 月 16 日（土）14:00-16:30　於：静岡市美術館多目的室
［パネラー］**山梨絵美子**氏（東京文化財研究所 企画情報部副部長）、**滝澤正幸**氏（上田市立美術館 館長）、**古田亮**氏（東京藝術大学大学美術館 准教授）、**齊藤洋一**氏（松戸市戸定歴史館 館長補佐）
［司　　会］吉田恵理（静岡市美術館 学芸員）

The Society for the Study of Japonisme

ジャポニスム学会（会長・理事：馬渕明子、名誉会長：高階秀爾、顧問：坂本満）は、1980 年、山田智三郎、大島清次、瀬木慎一、池上忠治、芳賀徹らにより発足。現在会員は 200 名以上。
http://www.world-meeting.co.jp/japonisme/

展覧会賞については、
別添**ジャポニスム学会News Release**参照

展覧会共通チラシ（A3 二つ折り）
将軍慶喜と晩年の公爵慶喜、歴史と美術の融合、博物館（松戸）と美術館（静岡）連携などを象徴する。

（デザイン：氏デザイン株式会社 ※）
※チラシ・ポスター、鑑賞ガイド等印刷物のほか展覧会ロゴ、静岡市美術館会場設営デザインを担当。

展覧会構成

1 章　七郎麻呂は天晴名将とならん

1 節　水戸弘道館で、2 節　水戸旧城之図を読む

2 章　十五代将軍

1 節　変貌する将軍、2 節　開化への眼差し、

3 節　幕末の二条城と政権返上、4 節　慶喜を支えた幕臣たち

3 章　文人の営みと眼差し

1 節　維新後の再生、2 節　慶喜の油彩画を読む、

3 節　慶喜の眼差し－撮影写真より

4 章　徳川慶喜家の誕生

1 節　天皇との和解、2 節　変貌した東京、3 節　江戸の象徴

展覧会図録　　A4 変形　184P　2000 円

編集発行：松戸市戸定歴史館・静岡市美術館
編集デザイン：美術出版社デザインセンター

鑑賞ガイド　　A4 二つ折り

慶喜の生涯や大政奉還を解説。 静岡市内のゆかりの地をMAPで紹介。（デザイン：氏デザイン株式会社）

ジャポニスム学会 展覧会賞　選考理由

・**歴史展展示と美術展展示**の融合と併用。

博物館・美術館の相互協力により、 歴史・美術両部門の相互理解の促進と、 企画・展示の優れた先行例。

・戸定歴史館が開館以来研究を進めてきた**慶喜と弟・昭武の研究を集大成**する内容。

本展では、 将軍・慶喜によりその名代としてパリに派遣された弟・昭武が、 欧州諸国と直接外交することで**日欧の文化交流に貢献**したことを、 **戸定歴史館所蔵の重要資料**をもとに紹介した。

・**幕末明治初期美術の先端的研究**が取り入れられている。

1867 年に開催されたパリ万国博覧会では、 日本人が描いた洋画 10 点が初めて外国で展示された。 本展では、高橋由一、川上冬崖、中島仰山、島霞谷ら幕府洋学機関・開成所の画家を採り上げ**黎明期の日本近代洋画を紹介**。

・**慶喜の油彩画や撮影写真を紹介**。

開成所の画家の作品と慶喜の油彩画とを一堂に展示、かつ慶喜撮影の写真なども集大成。 慶喜作品を美術史の俎上に乗せようとした意欲的試み。

・**シンポジウム「徳川慶喜の油彩画を読む」や講演会など関連プログラム**も多く実施。

これらが、 **ジャポニスムにも通じる 19 世紀日仏の文化交流のテーマと研究を、 研究者だけでなく広く社会的に普及した展覧会**として高く評価されました。

（別添　ジャポニスム学会発行プレスリリース「選考理由」より抜粋、 要約）

参考：本展に関する新聞（全国紙）・ウェブ記事掲載実績

・『毎日新聞』 夕刊　文化面　高階秀爾（大原美術館館長、 美術評論家）「目は語る」 2013.11.13
・『日本経済新聞』 朝刊　文化面　田村広済「徳川慶喜、 洋画家の一面　没後 100 年研究進む」2013.11.30
・『朝日新聞』 朝刊　千葉県版　文化面　小渕明洋「最後の将軍 歌集復刻で光」 2014.12.17
・NHKニュースウェブ「『博物館 × 美術館』コラボで慶喜に迫る」2014.12.7-14

●問合せ
松戸市戸定歴史館　齊藤洋一　　千葉県松戸市松戸 714－1　TEL：047-362-2050
静岡市美術館　吉田恵理、 大石沙織　　静岡市葵区紺屋町 17-1 葵タワー 3 階　TEL：054-273-1515